

ナショナリズム・入国管理・レイシズム

— 2016年度の研究成果と今後の展望 —

日時： 2017年5月17日(水) 13:20～14:40

場所： 神戸大学 国際文化学研究科E410・学術交流ルーム

講師： 朴 沙羅 氏 (神戸大学国際文化学研究科 講師)

報告内容：

神戸大学に着任して以来、調査研究に集中できる環境をいただく中で、私自身の研究の関心は「国民国家という制度が具体的にいかなるやり取りによって成立しているのか？」というものであると感じつつあります。これまで、私は韓国からの移住者を対象に、日本の入国管理制度の実施プロセスについて調査してきました。昨年度は現在の日本社会において重国籍者がどのような問題を抱えているのかという問題と、戦後日本における入国管理局の裁量権の大きさが何に由来しているのかという2点に、主な関心を絞って調査を開始しました。これらの調査においてはどれも、入国管理という制度が実際に運営される際、移住する人々と移住を管理しようとする人々との間で、どのように人種や民族に関するカテゴリー化が行われるのかという点にまた社会調査として「過去に体験したこと」に関するデータをどのように扱うのかという点に、主な関心を抱いています。また調査論に関しても編著・翻訳書を出版しました。

今年度は、昨年度に開始した調査を引き継ぐとともに、すでに執筆・査読に入っている論文（日本語・英語）2本を掲載可能な水準まで持っていくこと、また課程博士論文を基にした単著を出版することを目標として、鋭意努力してまいります。

報告者プロフィール：

2013年京都大学文学研究科博士後期課程研究指導認定退学。移民・エスニシティ研究。翻訳に『オーラルヒストリーとは何か』（水声社, 2016年）、編著に『最強の社会調査入門』（ナカニシヤ出版, 2016年）。